

美術館建設計画も迷走中！

川口市は「川口市美術館建設基本計画」（2021年6月策定）で、川口駅東口の「川口市栄町3丁目」での建設を目指すと明記されていましたが、市はこれを破棄。川口駅西口の川口総合文化センター「リリア」に隣接して建設する方針に転換しました。

美術館建設は当初から、その必要性も含めて批判されてきました。ここにきて設置場所の変更も検討するとは計画作成の意義を損なうものであり、市のガバナンスが問われる問題です。



リリア外観

当初の建設計画では、隣接のマンションを含めた再開発を行うことで建設費用を抑えると説明していましたが、今回の計画変更のより、建設費がいくらかかるのかについても不透明になっています。建設予定の地下には、西口公共駐車場があり、工事は大変難しいものになるとの懸念もあります。

リリアの改修工事と一括発注？

リリアについても最大で約125億円をかけて改修するとされています。この費用については妥当なものか精査が必要ですが、美術館の建設と一括して発注するとの方針が示されています。これでは、改修費用の妥当性の検証もできません。

これでいいのか！「川口駅前まちづくりビジョン」 ～あるべき長期計画の姿から大きく外れる中距離列車停車計画～

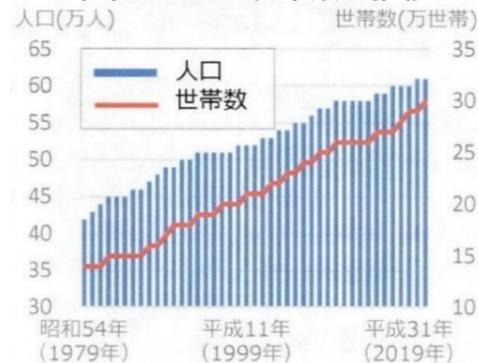
JR 川口駅に上野東京ラインを停車させることを基本とする「川口駅前まちづくりビジョン」が進行中です。混雑している川口駅の輸送力を増強することが目的とされていますが、様々な問題点を含んでいます。その費用は莫大になることが想定され、利用者の利便性の向上、費用負担のありかた、地元経済への影響などさまざまな視点での総合的な検討が必要です。

人口減少を無視して計画策定？！

これまでの実績だけが根拠

長期な計画を作る際に最も重要なのは、人口の増減や年齢構成です。今回のビジョンの欠陥は、市の人口が将来減少することを考慮していないことです。特に、インフラの整備には、整備に時間がかかることや多額の費用が必要であること、次世代にもその負担を求めていくことにあることから、将来ニーズを踏まえた検討が必要です。しかし、このビジョンではこれまでの人口増加傾向だけが強調されています。

本市の人口・世帯数の推移



出所：「まちづくりビジョン」13頁より

日本の将来人口は今後確実に減少していきます。現実に川口市の人口も2020年5月（令和2年）をピークに減少が始まっています。この点について繰り返し指摘してきましたが、人口増加が強調される内容は変わりませんでした。



出所：内閣府 HP。
日本の人口は、2040年までに11%、2060年までに27%の減少が予測されています。「第5次川口市総合計画」でも令和12年をピークに人口が減少すると予測されています。

中距離列車の川口駅停車も取り組み方針とされています。300億円とも言われる支出が見込まれる大事業であり、本当に必要なのかニーズについての真摯な検討が不可欠です。

長期的な財政見通しを 考えていない？！

将来人口の減少に伴い財政収入も減少します

人口が減少すれば、生産年齢人口（15歳～65歳）も減少します。人口減少が進む中で、税収も減少していきます。現在あるインフラの維持管理にも多くの財源を充てて行かなければならないことを考えると、財源の視点を含めた検討が不可欠です。

上野東京ラインをはじめとする大規模なインフラ投資をしたいためなのか、川口市は税収が減るという見通しは示しません。「長期的に見通すことは困難」と述べることにとどまっています（2022年6月一般質問）。極めて無責任な姿勢です。

将来の財政収入について危機感を持ってインフラ投資の在り方を考えるべきです。

整備が必要なのは川口駅だけなのか？

市の均衡ある発展の視点がありません

川口市は、歴史的背景が異なる10地区で構成されています。しかし、これまで市政施行時に中心であった川口駅周辺に目を向けてきたという指摘されています。

今回のビジョンも川口駅周辺が対象となっていますが、JR駅を中心に市内の他の駅もまた能力不足、老朽化など、川口駅と同様に課題を抱えています。

主要駅（JR）の乗車人員 2019年

JR 川口駅	84,197人	SR 東川口駅	16,934人
西川口駅	59,062人	戸塚安行駅	8,276人
蕨駅	61,829人	新井宿駅	5,913人
東川口駅	36,918人	鳩ヶ谷駅	11,990人
JR HP より		南鳩ヶ谷駅	8,333人
		川口元郷駅	10,672人
		SR HP より	

川口駅を利用しない市民に多額の負担を強いてよいのでしょうか。市は、「川口駅周辺まちづくりの経験を他の駅にも活かしていく」という説明をしていますが、それでは遅すぎます。

埼玉高速鉄道（SR）の活用を

これまで埼玉高速鉄道（SR）川口元郷駅との連絡を強化するという選択肢が示されてきました。「ビジョン」にも記載はありませんが、上野東京ラインを停車させてから検討の扱いです。SRの運賃を下げ、ふたつの駅の連絡を強化することにより、川口駅の混雑緩和を見込むことができます。

複数の選択肢の費用、効果を比較検討することによって、より良い政策を見出すことができます。多くの市民の声を集めながら、丁寧に検討する必要があります。